

2023年度報告書

- ・事業報告及び附属明細書
- ・貸借対照表
- ・損益計算書(正味財産増減計算書)
- ・損益計算書(正味財産増減計算書)内訳表
- ・財務諸表に対する注記
- ・貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書
- ・予算対比損益計算書(正味財産増減計算書)
(参考資料)
- ・財産目録(参考資料)
- ・監査報告

I はじめに

2023年度は、新型コロナウイルスの位置づけが5類に引き下がり、日本経済は緩やかな回復基調を取り戻しましたが、賃金や設備投資等へは十分に反映されるに至らず、収入や生活環境には依然として課題が残る状況にありました。

そのような状況下、以下の3事業を通じ、お客さま一人ひとりのWell-Being実現に貢献しました。

2022年度より着手した「事業見直し」及び「収支改善」の取り組みを継続し、更なる社会的使命発揮、持続可能性向上を図りました。

- ・ 予防医学振興事業につきましては、住友生命総合健診システムで実施する総合健診(人間ドック)を柱に、年間2万人を超える受診者にレベルの高い健診の場を提供しました。本事業を、収益拡大を目指す事業として明確化し、中長期的に単独黒字化を実現すべく取り組みました。
- ・ 福祉事業につきましては、「民の立場」から行政の手の届かない分野への支援を実施しました。また、「福祉事業を取り巻く社会の現状ならびに行政の取組状況」等を再整理・再確認し、新たに「子ども」「障がい者」をテーマとした取り組みを開始しました。
- ・ 音楽文化振興事業につきましては、クラシック音楽専用ホール「住友生命いずみホール」を拠点に、音楽による社会貢献を推進すべく、主催公演の集客力向上、貸館事業の稼働率向上に取り組みました。

II 予防医学振興事業

住友生命総合健診システムで実施する総合健診(人間ドック)の質およびホスピタリティをさらに高めるとともに、健診で得た知見は広く社会全般へ還元し啓蒙を図りました。

1. 健診クオリティ・受診者体験価値(CX)の向上

- ・ 4月にホームページを全面改訂しました。当システムの特色や検査の説明などの説明機能を充実させ、「FAQ」の充実や「お問い合わせフォーム」の追加といった利便性向上、また性別・年齢・気になる症状や疾病の入力内容をもとに適切なオプションを提示する「オプションナビ」機能の追加など、受診者の視点からレベルアップさせました。
- ・ 5月13日(土)にスタッフ・受診者とも全て女性みのレディースデイを初めて実施しました。予約枠60名に対し56名とニーズも高く、健診後に実施したiPadによるアンケートでは、55名から回答(回答率98%)いただき、うち54名から「満足」の評価をいただきました。
- ・ 新型コロナ5類移行に伴い、換気面で十分な環境を整え、6月1日から肺機能検査を再開しました。
- ・ 2025年度に予定している健診基幹システム(TOHMAS)の更新に向け、5月のプロジェクトチーム発足以降、全職員一丸となって取り組みを進めました。
- ・ 11月8日~12月28日に実施したiPadによる受診者アンケートでは、3,240名から回答いただき(回答率97.8%)、うち男性90.0%、女性9.7%の方から「満足」の評価をいただきました。
- ・ 2024年度から第4期に入る特定健診・特定保健指導について、厚生労働省所定の「標準的な健診・保健指導プログラム」の改正に伴い、健診項目や問診内容、特定保健指導実施後の評価方法が変更されるため、2023年度末までにシステムや実務面の対応を完了させました。

2. 受診者数の向上・健診収入の拡大

- ・ 総受診者数では2022年度に受け入れを拡大した住友生命定期健康診断の効果で、総合健診受診者数ではカムバック運営(*1)や1日あたり受診者上限内での柔軟な予約受付運営(*2)、新規団体との健診契約受託などの効果で、4月より順調な滑り出しとなりました。

(*2)2021年度に受診あり2022年度に受診なかった受診者への書面郵送による受診促進運営

(*3)原則(総合健診100名、その他10名)の予約枠内訳を柔軟運用する予約受付運営

- ・その後6月以降も以下の取り組みを実施しました。
 - ①人間ドック初回受診者獲得へ向けた方策

特定団体を対象に、人間ドック初回受診者向けの「ギフトカード進呈特典」を実施し、その案内を記したダイレクトメールを団体職員さま宛送付しました。
 - ②人間ドック連続受診、及び新規紹介促進へ向けた方策

2023年度から受け入れを開始した特定団体を対象に、次年度も連続で受診いただいた際の「ギフトカード進呈特典」を実施し、その案内とともに、当施設で新規受診者の紹介依頼を記したお礼状を送付しました。また連続受診率向上と待ち時間の有効活用のため、スマートフォンでの次年度予約を促すポスターを、待合スペースに掲示しました。
 - ③住友生命グループ企業への働きかけ

健診収益基盤の更なる強化のため、粘り強く住友生命関連子会社に働きかけた結果、その内1社との「雇用時健診」の契約締結につながりました。
 - ④新規取引先開拓

近隣事業所の一斉開拓を目的にポスティングを実施し、同ビル内入居企業1団体から「生活習慣病予防健診」を新たに受託しました。
 - ⑤その他
 - ・予約の掘り起こしのための団体健診担当者あてメールマガジン発信や、体調不良などによる直前キャンセルへの対策として1日あたりの健診予約枠を4枠増枠なども実施しました。
 - ・手数料収入による収益底上げでは、脳検査提携先病院へ27件の紹介受診、取引事業所への産業医紹介で契約成立5社（紹介7社）など着実に結果に結びつきました。
 - ・4月から実施した受診者向け食事券の見直しにより、年間累計で約887万円の経費削減と受診者満足度の維持を両立させました。
- ・一方、第3四半期以降は、契約団体の受診時期前倒しによる空き枠を新たな受診者で十分に補えない中でインフルエンザ流行などもあり、人間ドック受診者数の減少傾向が続く厳しい環境でした。結果として2023年度実績は以下のとおりとなりました。

総受診者数	23,617名	(2022年度実績比+1,393名)
人間ドック受診者数	19,860名	(" ▲ 159名)
健診料収入(税別)	1,036百万円	(" + 19百万円)

また年間計画に対する遂行率等は以下のとおりとなります。

総受診者数	99.6%	(計画比 ▲ 83名)
人間ドック受診者数	97.8%	(" ▲ 440名)
健診料収入(税別)	94.0%	(" ▲ 66百万円)

3. 学会発表等

- ・2023年度に、学会発表はありませんでした。
- ・学会発表のほか、多くの研修会、勉強会等にもオンライン、現地開催も含め積極的に参加し、最新医学情報の習得、及び健診技術の向上のため、職員の研鑽に注力しました。

Ⅲ 福祉事業

2023年度からの新たな事業について、より効果的な事業を目指して自治体・NPO等関係団体と検討を重ねたうえで実施するとともに、その他の事業も滞りなく実施しました。

1. ケアする人のケアセミナー

- ・介護に関わる問題を、介護する側からの視点で考えるセミナーを3月17日に神奈川県(鎌倉市)で開催しました。
- ・開催地の鎌倉市、及び一般財団法人たんぼぼの家との共催で「ケアリング・ソサエティ 孤立と自律 ～支え合いの地域づくり～」をテーマとし、終了後の参加者アンケートでは70%の回答者から「有意義だった」との回答、23%が「概ね有意義だった」との回答でした。参加者にとって満足度の高いセミナーとなりました。

2. 第17回 地域医療貢献奨励賞

- ・例年同様、自治医科大学や各都道府県と連携して地域医療の確保と向上、住民の健康福祉の増進に貢献している医師6名を11月17日の選考委員会で選出しました。うち1名は、これまで受賞者のなかった広島県から初めての選出となり、累計受賞者はのべ104名となりました。
- ・3月2日に表彰式および祝宴(於:東京)を開催しました。受賞者の詳細はP5～6のとおりです。
- ・本賞の認知度を高めるため地域医療に関する業界誌へ働きかけ、受賞者や表彰式の様子が掲載されました。また今後推薦者が増加し、より一層役割を果たせるよう、表彰式の様子を47都道府県あてに書面で報告しました。

3. 住友生命総合健診システムの社会貢献施設としての役割発揮(コラボレーション事業)

a. 聴力障がい者健診

- ・コロナ禍前と同程度の70名を上限に設定しましたが、76名の申込みをいただきました。
- ・抽選の結果、当日までのキャンセルを除いた65名の方にご受診いただき、当日は、例年同様、手話通訳者のほか施設スタッフも手話による案内を行いました。また、より多くの受診機会を提供すべく、抽選に外れた6名にも1月下旬に受診いただきました。
- ・今年度は京都府聴覚障害者協会にも会員あてPRにご協力いただき、11名の方に初めてご受診いただきました。ご受診者からは「ろう者のための場であることが、こんなに気楽で便利なのかと改めて感じました」との感想をいただくなど、意義深いものとなっています。

b. 視覚障がい者健診

- ・視覚障がい者の視点からのアドバイスなど、大阪府視覚障害者福祉協会の支援、協力をいただきながら検討を進め、来年度からの新たな事業として試験実施しました。
- ・同協会の機関誌を通じた告知と募集の結果、7名の応募があり、1月にご受診いただきました。
- ・ご受診者からの評価も高く、運営面での支障もないため、本格実施へ移行して2024年度も継続していきます。

c. 介護する人、及びひとり親家庭世帯者向け受診優遇の取組み

- ・親や配偶者の介護に携わる人やひとり親家庭の世帯者は、自身の健康管理が疎かになりがちであることから、受診優遇(*)の取組みを実施しており、29名の方にご受診いただきました。
- (*)総合健診(人間ドック)の受診時に、基本検査料金を通常より低廉に設定する仕組みです。

4. 子どもみらいフォーラム

- ・今年度からの新たな事業として、11月26日に「第1回子どもみらいフォーラムおおさか」の名称で実施しました。
- ・大阪府下の子ども支援団体6団体とともに実行委員会を編成し、「子どもたちに本当に必要なものを考え、実現するための行動と支援と連携が生まれるきっかけとなることを目指す」という目的に即したプログラムを検討し、記念講演、パネルディスカッション、分科会の3部構成としました。
- ・当日は177名の参加者のうち98名からアンケートを提出いただき、83%が「満足」との回答、16%が「やや満足」との回答で極めて高い評価でした。より意義あるフォーラムとすることを目指して2024年度も継続していきます。

5. 子どもコンサート（コラボレーション事業）

- ・今年度からの新たな事業として、12月24日に「こどもクリスマスコンサート」の名称で実施しました。
- ・「貧困・孤立・虐待・家族の介護・心身の障害など様々な苦難に囲まれている多くのこどもたちとその周囲で支えている多くの方々にとって、明日への新たな一歩を踏み出し、今後、歩み続ける活力になることを願う」という想いで企画しました。
- ・支援が必要な子ども・親・NPO法人等の職員を対象に、会場の住友生命いずみホールへ無料招待し、当日は149名にご来場いただき、そのうち44名からアンケートを提出いただきました。全員が「満足、次回も参加したい」と極めて高評価でしたので、より多くの支援が必要な子どもと周囲の方々に、この機会を提供できるよう2024年度も継続していきます。

【ご参考】

2023年度の地域医療貢献奨励賞の受賞者は以下のとおりです。(敬称略)

<p>武田 隆 (たけだ たかし)</p>	<p>山形県 西川町立病院[院長]</p>
<p>昭和61年自治医科大学卒。県立中央病院および川西町立病院勤務を経て、平成4年に西川町立病院の外科医長として着任。</p> <p>以降、院内での手術、診察、救急患者の対応等に加え、認知症サポート医や産業医としてへき地医療の確保に尽力。また「保健・医療・福祉」の包括的一元化の推進に寄与し、地域包括医療の実現にも大きく貢献。</p> <p>さらには、出張診療、訪問診療、訪問看護の充実など地域医療充実へ取り組み、自らも付属診療所(岩根沢診療所、小山診療所、大井沢診療所)に赴いての診察など、へき地における医療確保に献身的に尽くされる。令和4年4月には院長に就任。</p> <p>過疎地域における医師不足解消のため、通算31年間にわたり県内有数の豪雪地帯で診療や保健検診事業等に尽力。</p>	
<p>鈴木 善幸 (すずき よしゆき)</p>	<p>新潟県 魚沼市医療公社魚沼市立小出病院 地域医療教育・研修センター[センター長]</p>
<p>昭和61年自治医科大学卒。町立相川病院、県立六日町病院、県立小出病院等へき地病院を歴任後、平成18年に県立松代病院へ着任、平成20年に同院院長へ就任。</p> <p>在任中には学校医を務める小中高校生を対象とした授業による「無煙世代」の育成に注力。地域医療研修中の研修医を授業の担い手とすることで、地域医療における保健活動との協働が持つ意義を若手医師へ伝達。</p> <p>また平成29年に魚沼市立小出病院の地域医療教育・研修センター長へ就任。他院からの地域医療研修を積極的に受け入れ、多種多様な疾患や健康問題を抱える高齢者に対して効果的な医療が提供でき、地域包括ケアに対応したリーダーシップをとれる総合的診察能力を有する医師の養成に尽力。</p> <p>さらに新潟大学や岩手医科大学から地域医療臨床実習を毎年多数受け入れ、指導・実習を通じた多職種連携や地域包括ケアを学ぶ機会を提供。その他、医師以外の医療職・介護職へ共通言語を増やすための講義や感染症対策に関する講義などを通じて、学生指導や市民への情報提供活動にも精力的に取り組まれている。</p>	
<p>手操 忠善 (てぐり ただよし)</p>	<p>滋賀県 長浜赤十字病院[非常勤]</p>
<p>昭和55年自治医科大学卒。義務年限5年目の昭和59年に滋賀県東浅井郡浅井町(現：長浜市)の中部診療所に所長として着任。義務年限終了後も引き続き県職員として中部診療所長を務め、以来35年間にわたって山村地域、豪雪地域でもある浅井町の医療確保・充実に尽力し、当該地域住民の診療はもとより健康づくりまで含めて地域医療に極めて大きく貢献。</p> <p>国民健康保険組合直営診療所運営の社会的使命を自覚し、限りある資源や社会情勢の変化に配慮した公正な医療の提供および公衆衛生の向上に努められる。</p> <p>また自らの役割に基づく常に冷静な言動や、誰に対しても謙虚かつ誠実な態度に加え、臨床上の情報を常に収集・評価して医薬品等による健康被害の発生防止について理解し、適切な診療を行うなど、患者からの信頼も厚い。</p> <p>さらに平成25年からは湖北医師会長として会員をまとめ、湖北地域の地域医療や多職種連携、保健福祉介護事業等の推進に向けて県や市を含む行政と密に連携しながら取り組まれ、積極的に公衆衛生の推進に寄与。平成31年に県職員退職後も引き続き地域医療に貢献し続けている。</p>	

<p>松下 耕太郎 (まつした こうたろう)</p>	<p>島根県 隠岐の島町国民健康保険中村診療所[所長] (兼) 隠岐の島町布施へき地診療所[所長]</p>
<p>昭和61年香川医科大学医学部卒。隠岐の島ウルトラマラソンに参加して島内の医療逼迫を知り、平成22年に国民健康保険中村診療所(兼)布施へき地診療所の所長として着任。フットワークの軽さを発揮して往診、訪問診療、在宅看取りだけでなく、週末の青空健康教室では健康寿命を限りなく平均寿命に近づける必要性を啓発。</p> <p>また地域連絡会では、高齢者福祉施設代表者に加え、派出所警察官、民生委員、社会福祉協議会担当者、役場職員の参加を求め、地域全体で認知症、独居高齢者の孤独死対策として見守り体制を強化し、島内でもモデル的な会議に発展させている。</p> <p>さらに令和6年に予定されている隠岐病院と町立診療所の一元化計画については、準備検討委員の中心メンバーとして課題を洗い出し、住民への説明に尽力。高齢者口腔内ケアの必要性を歯科医師と共有し、医科歯科連携を密にする体制も構築。産業医としてメンタルヘルス対策に取り組みられるとともにメンタル不調休職者の再発予防にも貢献されるなど、島民からの信頼も厚く地域住民の健康福祉の増進への幅広い活動による功績は極めて大きい。</p>	
<p>藤家 証一 (ふじか しょういち)</p>	<p>広島県 大和診療所[所長]</p>
<p>昭和58年自治医科大学卒。卒業後は広島県職員として採用され、義務年限期間中はへき地診療所、過疎地域の中小病院やへき地医療拠点病院などに勤務。</p> <p>平成元年以降、三原市大和町において診療所長を務め、外来診療に加え往診等による在宅医療も積極的に実施。専門である内科以外に小児科、外科、皮膚科、心療内科など多科にわたる診療に加え、乳児医療、予防接種、学校医などの保健活動から癌などの終末医療まで幅広く1人で対応されるなど、住民が安心して暮らせるための初期医療を担う「地域のかかりつけ医」として日々奮闘されている。</p> <p>また医師としての大半をプライマリ・ケアの現場で活躍。プライマリ・ケアの特質を「幅の広さ」と考え、住民の身体・心理的な問題から社会的問題まで多種多様な問題に対応し、医療の枠を超えた「保健・医療・福祉」の連携にも尽力。</p> <p>ケアマネージャー、訪問看護、通所施設などと積極的に連携を図り、地域住民の生活をまるごと支えるための生活支援の基盤づくりへ精力的に取り組まれるなど、広島県内における地域医療の確保と住民福祉の増進に対して40年間もの長きにわたり果たされた功績は極めて大きい。</p>	
<p>川本 龍一 (かわもと りゅういち)</p>	<p>愛媛県 愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座[教授]</p>
<p>昭和60年自治医科大学卒。卒業後、県南予地域の中でも特に過疎化や高齢化が著しく進行する西予市野村地域の西予市立野村病院(へき地医療拠点病院)において、義務年限内を含めて30年余りの長きにわたり地域に根差した地域医療に従事。</p> <p>とりわけ野村病院内での内科診療や二次救急医療に従事される傍ら、病院から車で1時間ほどかかる山間地への訪問診療や、へき地診療所廃止に伴い導入した移動診療車による巡回診療など、医療資源に恵まれない地域の医療の維持・確保に尽力。加えて、西予市以外のへき地診療所への代診支援など、西予市野村地域に留まらず幅広く地域医療を継続的に提供。</p> <p>また西予市における急務の課題であった「地域包括ケアシステム」の構築に向け、いち早く「多職種連携と地域包括ケア研究会」を設立し、継続した会議開催により体制構築の課題や取り組みに関する関係者間の共有を深め、医療と介護の役割分担や多職種間の連携づくりを進め、野村病院の地域包括ケア病棟設置と西予市野村地域の「地域包括ケアシステム」体制構築に大きく貢献。その功績は極めて大きい。</p>	

IV 音楽文化振興事業

5月からの新型コロナ5類移行の環境変化を受け、アフターコロナへの転換を注視しながら多くの演奏に接する機会を提供するとともに、各種取り組みを行いました。予定していた公演は、いずみシンフォニエッタ大阪音楽監督・西村朗氏のご逝去に伴い中止となった音楽講座以外は、海外アーティストの公演も含め、全て実施することができました。

1. 主催公演

- ・38公演を開催し、来場者数は17,138名（平均来場者数は451名）となりました。昨年度から芸術性を重視する公演（23公演）と収益性を重視する公演（15公演）を分別し、芸術性を重視する公演はより多くのお客さまにご来場いただくことで芸術の普及を目的とし、収益性を重視する公演はより多くのお客さまにチケットをご購入いただくことで収益の獲得を目的と定め公演運営にあたっています。
- ・主な公演は次のとおりです。
 - ①2023年度の年間メイン企画
5月30日から2月22日の期間で昨年度に続き「シューベルトシリーズ」として、音楽アドバイザーの堀朋平氏によるレクチャー&コンサートを含め、計7公演を実施しました。
 - ②普及啓発事業公演
4月に「ホールを知る」「ホールを楽しむ」をテーマに新規取組としてオープンハウスを実施しました。ホールバックヤードの見学やミニコンサート等で、お客さまにホールを身近に感じていただきました。そのほかに親子を招待する「いずみ子どもカレッジ」、障がいのある方とそれをサポートする方を招待する「第21回・第22回 夢コンサート」を開催し、第22回は初めてオルガンによる公演を実施しました。その他普及活動として2月にいずみホール近隣地域で働かれている方を対象にした「OBPクラシック」を実施、同じく2月にフレンズ会員の増員を目指した「フレンズ会員限定パイプオルガン演奏会」を実施しました。
 - ③人材養成事業公演
関西出身で世界的に活躍をされている葵トリオを講師に招き、室内楽のマスタークラス(*)を実施しました。
(*)若手演奏家育成のための公開レッスン
 - ④その他恒例の主催公演
いずみシンフォニエッタ大阪「7月第50回・2月第51回定期演奏会」の他、6月、9月、11月、3月には定番の「ランチタイムコンサート」、7月に「午後の特等席」、8月に「和のいずみ」をそれぞれ開催しました。
- ・住友生命および関連会社の職員から公演内容やホール運営面でご意見をいただき、より良いホール運営に活かしていくために、モニター制度を継続しました。モニターには公演を鑑賞いただき、ご意見をいただきました。今後のホール運営に活かしていきます。
- ・住友生命社内での住友生命いずみホールの認知度を高め、より多くの職員に足を運んでいただくために、住友生命の社内イントラネットを利用して公演をPRし、チケットの斡旋販売を行いました。

2. 貸館公演・共催公演

- ・年間171公演を開催し、来場者数74,072名（平均来場者数は433名）となりました。
- ・2022年度と比べ、公演数で27公演、来場者は14,913名増加しました。コロナ渦前に貸館を利用いただいていたお客さまへの営業アプローチを進め、「大阪クラシック」での貸館利用が復活、また在阪4オーケストラを中心に貸館利用に向けた取り組みを進めており、関西フィルハーモニー管弦楽団の貸館公演ではフレンズ会員割引を適用する取り組みを開始しました。その他新規の貸館誘致については、EXPO2025での式典利用等につなげていくため大阪観光局のホームページへの掲載や在阪領事館へのアプローチ等を進めました。
- ・共催公演について、ホールと主催者の費用負担割合に応じてチケット収入を按分する、新たな共催公演運営方法の取組を開始し、今後のビジネスモデルの1つとしました。

【各公演数・入場者数】

	2023年度 ()は2022年度(注1)		オープン以来(注2)	
	公演数	入場者数	公演数	入場者数
主催公演	35 (28)	16,949 (15,300)	1,302	725,765
主催公演 (人材養成事業)	3 (1)	189 (57)		
共催公演	23 (22)	7,421 (6,645)		
貸館(注3)	148 (122)	66,651 (52,514)	6,181	3,323,912
合計	209 (173)	91,210 (74,516)	7,483	4,049,677 (注4)

(注1) 中止公演は公演数に含めていません。

(注2) オープン以来累計には休館中等の社外会場実施分、無観客配信公演は含めていません。

(注3) 貸館には受託公演を含みます。

(注4) 2023年10月13日小曾根真氏(主催)公演にていずみホール入場者数400万人達成記念セレモニーを実施しました。

3. オフィシャルスポンサー、オフィシャルサポーター等

- ・スポンサー12社、サポーター22社は全て継続されておりますが、新規協賛企業はありません。
- ・引き続き新たに創設した年間シートの活用も含めて、新規スポンサー、サポーター開拓にも取り組みました。

4. 集客率向上への取組

- ・メールマガジン対象者を増やし、チケット購入に繋げるため、新たにチケット割引クーポン付きのメールマガジンの発行を開始しました。
- ・若い世代にクラシック音楽を楽しんでいただく機会を増やすために、割引対象年齢を30歳以下に拡大したU-30チケットの販売を開始しました。
- ・フレンズ会員については、2023年1月からWEBフレンズ会員制度(年会費1000円)を追加し、順調に移行が進みました。その結果、3月末時点で、フレンズ会員全体:3,589名(2022年度末比527名増加)、うちWEBフレンズ会員:1,140名、メールマガジン対象者:11,927名(2022年度末比2,597名増加)と着実に増加が図られました。
- ・新たなお客さま拡大に向けて2024年2月からLINEの活用を開始しました。

5. 助成金、補助金

- ・公的助成としては、文化庁(日本芸術文化振興会)から2,579万円、大阪市からは600万円の助成が得られています。
- ・民間助成としては、野村財団、三菱UFJ信託芸術文化財団、花王芸術・科学財団、日本室内楽振興財団より、計180万円の助成が得られています。

6. 利便性向上 他

- ・2023年10月SDGsの観点からお客さまへお渡しするチラシ入れを紙製に変更しました。
- ・2024年3月海外のお客さまにもご来場頂きやすいよう、ホームページの英語版を作成しました。

【ご参考】

2023年度の全主催公演は次の内容です（公演日、標題、演奏者、入場者数を記載）。

〔シューベルト—約束の地へ〕

5/30 (火)	特別企画 レクチャー「幸福は、いまここに。」 出演／堀 朋平（お話）／松原 友（テノール、お話） 三井ツヤ子（メゾ・ソプラノ）、清水徹太郎（テノール）、 森寿美（バリトン）、武久竜也（バス）、越知晴子（ピアノ）	511
8/4 (金)	Vol.1 「地に沁みわたる神性」 出演／神尾 真由子（ヴァイオリン） with Friends 企画・監修／堀 朋平	361
9/16 (土)	Vol.2 「いま、超越へー」 出演／鈴木 雅明（指揮）／バッハ・コレギウム・ジャパン 安川 くみ（ソプラノ）、清水 華澄（アルト）、鈴木 准（テノール）、 大西 宇宙（バス） 企画・監修／堀 朋平	414
11/5 (日)	Vol.3 「答えなき“謎”」 出演／ハーゲン・クアルテット（弦楽四重奏団） 企画・監修／堀 朋平	415
11/22 (水)	Vol.4 「詩情は4つの世紀をこえて」 出演／ティル・フェルナー（ピアノ） 企画・監修／堀 朋平	283
1/17 (水)	Vol.5 「いつまでも伝わるもの—自然、神話、そして心」 出演／イアン・ボストリッジ（テノール）、ジュリアス・ドレイク（ピアノ） 企画・監修／堀 朋平	467
2/22 (木)	Vol.6 「歴史をきざむ三者（トリニティ）」 出演／トリオ・アコード（ピアノ・トリオ） 企画・監修／堀 朋平	410

〔新・音楽の未来への旅シリーズ〕

7/8 (土)	いずみシンフォニエッタ大阪 第50回定期演奏会 「50回記念—生誕60, 70, 80, 90, 100年特集」 出演／飯森範親（指揮） 菊本和昭（トランペット）、小栗まち絵（ヴァイオリン） 篠崎和子（ハープ）、上田希（クラリネット）	540
2/10 (土)	いずみシンフォニエッタ大阪 第51回定期演奏会「〈和洋感応—愉悦の流域〉」 出演／飯森範親（指揮） 本條秀慈郎（三味線）	387

〔フランス・オルガン音楽の魅惑〕

11/18 (土)	Vol.3 シンフォニーそして現代 出演／ヴァンサン・デュボワ（パイプオルガン） 森本端生（打楽器）、丹治 樹（打楽器） ミシェル・ブヴァール（プロデューサー／お話） 宇山＝ブヴァール康子（お話、通訳）	345
--------------	---	-----

〔バッハ・オルガン音楽の美学を巡る〕

3/21 (木)	Vol.3 巧みな演奏効果を目指して～中期 出演／富田一樹（パイプオルガン）	401
-------------	---	-----

[ランチタイムコンサート]

6/14 (水)	Vol. 19 「そよぐ樹々 ～さえずる愛の鳥たち」 出演／古瀬まきを (ソプラノ) 清原邦仁 (テノール) 關口康祐 (ピアノ) ／堀 朋平 (企画・構成、お話)	577
9/4 (月)	Vol. 20 「金管五重奏に親しもう」 出演／兵ブラス・クインテット (金管五重奏) 菊本和昭／西馬健史 (トランペット) 垣本昌芳 (ホルン) 岡本 哲 (トロンボーン) 潮見裕章 (チューバ) 堀 朋平 (企画・構成、お話)	422
11/24 (金)	Vol. 21 「端正、重厚、そして繊細 ——」 出演／佐藤 晴真 (チェロ)／佐藤 卓史 (ピアノ) 堀 朋平 (企画・構成、お話)	502
3/5 (火)	Vol. 22 「越境するヴァイオリン」 出演／周防 亮介 (ヴァイオリン) 上田 晴子 (ピアノ) 堀 朋平 (企画・構成、お話)	655

[その他公演]

4/19 (水)	藤村実穂子 出演／藤村実穂子 (メゾ・ソプラノ) ヴォルフラム・リーガー (ピアノ)	446
4/28 (金)	M u s i c S u p p l e m e n t Vol.16 出演／ロー磨秀 (クラシック・ピアニスト／シンガーソングライター)	267
6/29 (木)	バッハ・オルガン作品演奏会アンコール Vol.4 出演／オリヴィエ・ラトリー (パイプオルガン)	504
7/4 (火)	午後の特等席 Vol. 7 出演／エンリコ・オノフリ (指揮) ワルター・アウアー (フルート) ガボール・タルケヴィ (トランペット) ハイドン・フィルハーモニー (管弦楽)	625
8/6 (日)	佐藤正浩プロデュース・オペラ プレ・コンサート『フランス・オペラに恋して』 出演／佐藤正浩 (指揮/ピアノ) 森谷真理 (ソプラノ) 池田香織 (メゾ・ソプラノ) 宮里直樹 (テノール) 甲斐栄次郎 (バリトン) 神戸市混声合唱団	406
8/26 (土)	新・日本の響き 和のいずみ 第1回 出演／片岡リサ (箏/プロデューサー) 藤原道山 (尺八) 池上亜佐佳 (箏) 日吉章吾 (箏)	532
9/21 (木)	庄司紗矢香 & モディリアーニ・カルテット & ベンジャミン・グローヴナー 出演／庄司紗矢香 (ヴァイオリン) モディリアーニ・カルテット、ベンジャミン・グローヴナー (ピアノ)	493
10/4 (水)	モーツァルト ピアノ協奏曲の旅 (ウィーン編) Vol.1 出演／井上道義 (指揮) 阪田知樹 (ピアノ) 大阪フィルハーモニー交響楽団	525
10/6 (金)	イザベル・ファウスト&クリスティアン・ベザイデンホウト &クリスティン・フォン・デア・ゴルツ 出演／イザベル・ファウスト (ヴァイオリン) クリスティアン・ベザイデンホウト (チェンバロ) クリスティン・フォン・デア・ゴルツ (バロック・チェロ)	465

10/13 (金)	IZUMI JAZZ NIGHT2023 The Amity Duet 出演/小曾根真 (ピアノ) アヴィシヤイ・コーエン (ベース)	538
1/11 (木)	ニューイヤー・コンサート 2024 出演/ウィーン・リング・アンサンブル	612
1/31 (水)	樫本大進&エリック・ル・サージュ シューマン&ブラームス ヴァイオリン・ソナタ・チクルス Vol.2 出演/樫本大進 (ヴァイオリン) /エリック・ル・サージュ (ピアノ)	769
3/7 (木)	小菅 優 いずみ室内楽シリーズ Vol.1 祈り 出演/小菅 優 (ピアノ) 金川真弓 (ヴァイオリン) 北村 陽 (チェロ) 吉田 誠 (クラリネット)	417
3/24 (日)	アントワン・タメステイ & 藤田真央 出演/アントワン・タメステイ (ヴィオラ) 藤田真央 (ピアノ)	779

〔人材養成事業〕

7/31 (月) ~ 8/2 (水)	室内楽・マスタークラス 講師/葵トリオ 秋元孝介 (ピアノ)、小川響子 (ヴァイオリン)、伊東裕 (チェロ) 内容/演奏家を目指す若者を対象とした室内楽マスタークラスを実施。 受講生4名1団体/聴講生85名	189
-----------------------------	---	-----

〔普及事業〕

4/8 (木)	オープンハウス 出演/◆パイプオルガン 山司恵莉子、塩澤真輝 (パイプオルガン) ◆室内楽 佐藤一紀 (ヴァイオリン)、碓山典子 (ピアノ)	669
8/10 (木)	いずみ子どもカレッジ2023 《めくるめくパーカッションの世界》 出演/打楽器アンサンブル P. A. N. KLANG (パン・クラング) 伊藤朱美子 伊藤多美子 上中あさみ 村田聖子 森本瑞生 樽井美咲 森田有衣子 (ピアノ)	457
9/27 (水)	第21回夢コンサート 出演/藤岡幸夫 (指揮)、関西フィルハーモニー管弦楽団	383
12/19 (火)	西村朗の音楽講座 XIV 『ラヴェルの秘術』 —フランス近代の作曲の至芸を読み解く— 出演/西村 朗 (お話)、いずみシンフォニエッタ大阪メンバー 西村朗氏逝去に伴い、12/19 公演は中止	—
2/19 (月)	OBP クラシック 魔法の楽器 ～パイプオルガンの多彩な魅力～ 出演/朴 秀美 (パイプオルガン)	571
2/21 (水)	【フレンズ限定イベント】 富田一樹 バッハ・オルガン音楽の美学を巡る 関連企画 パイプオルガン レクチャー&コンサート 出演/富田一樹 (パイプオルガン /お話)	374
3/13 (水)	第22回夢コンサート 出演/土橋薫 (パイプオルガン)	427

V 財団組織運営に関する事項

1. 評議員会・理事会開催状況

評議員会・理事会の開催実績は以下のとおりです。

【評議員会】

定時 2023年6月16日

- ・2022年度計算書類承認の件
- ・理事1名選任の件
- ・2022年度事業報告について（報告事項）
- ・2023年度事業計画書及び収支予算書について（報告事項）

【理事会】

第1回 2023年6月5日 ※定款第35条に規定する決議の省略による。

- ・2022年度事業報告及び計算書類等承認の件
- ・理事候補者1名選出の件
- ・2023年度定時評議員会開催の決定の件

第2回 2023年6月16日

- ・2023年度職務執行状況（4月・5月）について（報告事項）

第3回 2023年7月5日 ※定款第35条に規定する決議の省略による。

- ・理事長(代表理事)選定の件

第4回 2024年3月18日

- ・2024年度事業計画書及び収支予算書承認の件
- ・利益相反取引承認の件
- ・2023年度職務執行状況（4月～1月）について（報告事項）
- ・利益相反取引結果について（報告事項）

2. 内部統制に関する報告

【内部統制に関する基本方針】（2013年4月1日制定、2015年5月29日改定）

- （1）理事及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- （2）理事の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- （3）損失の危険の管理に関する規程
- （4）理事の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制
- （5）監事とその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人及びその独立性に関する事項及び当該使用人に対する指示の実効性確保に関する事項
- （6）理事及び使用人が監事に報告するための体制その他の監事への報告に関する体制及び当該報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利益な取扱いを受けないことを確保するための体制
- （7）監事の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
- （8）その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制

経営に重大な影響を与える事案や受益者等の利益が著しく阻害される事案等は発生していません。各規程に定める理事会及び監事への報告事項は下表のとおりです。

規程名	報告内容	2023年度状況
法令等遵守規程	コンプライアンスプログラムの遂行状況・達成状況	遂行状況・達成状況について問題なし。
	法令等遵守状況	法令等遵守状況について問題なし。
内部通報規程	内部通報制度で受け付けた通報・相談内容及び処理内容	内部通報制度で受け付けた通報・相談なし。
反社会的勢力対策規程	反社会的勢力への対応状況	反社会的勢力が関与する事案はなし。
受益者管理指針	相談・苦情等について	経営に重大な影響を与える、又は受益者の利益が著しく阻害されると判断される事案はなし。
受益者情報管理規程	受益者情報の管理状況	受益者情報の管理状況について問題なし。
外部委託管理規程	各委託元部署から集約した外部委託管理の全社状況その他の重要事項	外部委託先管理において問題となる事項はなし。
リスク管理規程	リスクの状況等	経営に重大な影響を与えると判断される事案はなし。
内部管理法内検証規程	検証結果	問題となる事項なし。

3. 評議員・役員 の 状況

2023年度における異動は次のとおりです。(敬称略)

2023年4月 1日	常務理事	新任	山崎 謙
2023年7月 4日	理事長	辞任	藤戸 方人
2023年7月 5日	理事長	新任	藤山 勝伸

評 議 員 名 簿 (敬称略)

(2024年3月31日現在)

評議員	小栗 まち絵	相愛大学大学院音楽研究科 教授 東京音楽大学 特任教授・ヴァイオリニスト
評議員	片山 登志子	片山・平泉法律事務所 弁護士・住友生命保険相互会社 社外取締役
評議員	楠岡 英雄	独立行政法人 国立病院機構 名誉理事長
評議員	斉藤 弥生	大阪大学大学院人間科学研究科 教授
評議員	佐藤 義雄	住友生命保険相互会社 特別顧問・元取締役会長代表執行役
評議員	橋本 研	レンゴー株式会社 常勤監査役
評議員	森田 耕太郎	サカティンクス株式会社 元取締役会長

役 員 名 簿 (敬称略)

(2024年3月31日現在)

理事長	藤山 勝伸	住友生命保険相互会社 特別顧問・元執行役常務
常務理事	近藤 滋樹	一般財団法人住友生命福祉文化財団 本部事務局長
常務理事	山崎 謙	一般財団法人住友生命福祉文化財団 住友生命いずみホール事業局長
理事	宇高 不可思	一般財団法人住友病院 特別顧問
理事	香曾我部 武	大和ハウス工業株式会社 代表取締役副社長/CFO
理事	澤田 拓子	塩野義製薬株式会社 取締役副会長
理事	中村 孝義	学校法人大阪音楽大学 名誉教授 元学校法人大阪音楽大学 理事長・学長
理事	林 紀夫	独立行政法人 労働者健康安全機構 関西労災病院 病院長
理事	堀本 葉子	一般財団法人住友生命福祉文化財団 住友生命総合健診システム所長
監事	上野 博明	上野博明事務所 公認会計士・税理士
監事	田中 英行	宮崎綜合法律事務所 弁護士

4. その他

附属明細書として、事業報告の内容を補足すべき重要事項はありません。

以上

貸借対照表

2024年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,036,128,690	1,013,237,067	22,891,623
未収金	61,327	2,115	59,212
未収預金	168,164,415	155,939,388	12,225,027
貯蔵品	11,265,559	15,067,682	-3,802,123
有価証券	199,895,100	0	199,895,100
立替金	541,600	313,600	228,000
前払費用	6,604,377	6,139,118	465,259
仮払税金等	5,610,000	0	5,610,000
未収還付法人税等	1,082	1,081	1
	1,428,272,150	1,190,700,051	237,572,099
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	696,575,200	597,827,000	98,748,200
普通預金	1,039,350	101,039,350	-100,000,000
基本財産合計	697,614,550	698,866,350	-1,251,800
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	199,613,520	202,974,520	-3,361,000
特定資産合計	199,613,520	202,974,520	-3,361,000
(3) その他固定資産			
建物附属設備	20,519,875	23,946,458	-3,426,583
構築物	1,634,519	1,692,427	-57,908
什器備品	127,539,301	146,895,207	-19,355,906
ソフトラウエア	8,514,883	12,653,189	-4,138,306
投資有価証券	99,190,000	299,409,200	-200,219,200
電話加入権	432,000	432,000	0
敷金	4,652,000	4,652,000	0
長期前払費用	314,600	411,400	-96,800
その他固定資産合計	262,797,178	490,091,881	-227,294,703
固定資産合計	1,160,025,248	1,391,932,751	-231,907,503
資産合計	2,588,297,398	2,582,632,802	5,664,596
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	113,901,462	115,577,625	-1,676,163
未払費用	10,238,970	9,550,922	688,048
預り金	6,839,066	5,827,406	1,011,660
前受金	30,664,010	29,926,620	737,390
賞与引当金	44,060,878	43,021,235	1,039,643
未払法人税等	120,000	120,000	0
未払消費税等	12,705,700	17,893,700	-5,188,000
流動負債合計	218,530,086	221,917,508	-3,387,422
2. 固定負債			
退職給付引当金	283,537,000	280,816,000	2,721,000
固定負債合計	283,537,000	280,816,000	2,721,000
負債合計	502,067,086	502,733,508	-666,422
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	696,296,720	697,547,941	-1,251,221
指定正味財産合計	696,296,720	697,547,941	-1,251,221
(うち基本財産への充当額)	696,296,720	697,547,941	-1,251,221
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	1,389,933,592	1,382,351,353	7,582,239
(うち特定資産への充当額)	1,317,830	1,318,409	-579
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	2,086,230,312	2,079,899,294	6,331,018
負債及び正味財産合計	2,588,297,398	2,582,632,802	5,664,596

正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用利益	177,693	981,342	-803,649
基本財産受取利益	177,693	981,342	-803,649
事業収益	1,220,228,958	1,178,430,947	41,798,011
健診事業収益	1,035,748,014	1,016,857,058	18,890,956
受取み補事業収益	184,480,944	161,573,889	22,907,055
受取補助金収益	33,592,000	32,000,000	1,592,000
受取助成金収益	33,592,000	32,000,000	1,592,000
受取寄付金収益	385,000,000	385,000,000	0
受取寄附金収益	385,000,000	385,000,000	0
雑収益	654,298	972,304	-318,006
雑受取利息	7,117	457,133	-450,016
雑受取利息	647,181	515,171	132,010
経常収益計	1,639,652,949	1,597,384,593	42,268,356
(2) 経常費用			
事業費	1,616,188,686	1,565,144,580	51,044,106
役員給当	10,923,850	10,289,000	634,850
臨時職員給付	354,544,653	346,348,792	8,195,861
退職福利給付	310,004,234	308,842,485	1,161,749
福広旅通減消	27,274,300	25,522,700	1,751,600
旅通減消	80,313,317	82,097,442	-1,784,125
旅通減消	23,544,495	10,605,614	12,938,881
旅通減消	26,031,088	30,296,421	-4,265,333
旅通減消	24,450,552	23,821,601	628,951
旅通減消	58,566,981	60,291,593	-1,724,612
旅通減消	1,311,886	1,223,290	88,596
旅通減消	18,563,973	16,138,636	2,425,337
旅通減消	116,933,878	112,444,456	4,489,422
旅通減消	31,659,818	30,256,241	1,403,577
旅通減消	9,464,304	8,366,996	1,097,308
旅通減消	16,032,888	19,216,946	-3,184,058
旅通減消	149,212,442	150,626,672	-1,414,230
旅通減消	965,674	1,174,830	-209,156
旅通減消	1,742,299	1,497,568	244,731
旅通減消	2,781,609	1,948,198	833,411
旅通減消	21,390,732	20,536,914	853,818
旅通減消	1,185,555	1,279,464	-93,909
旅通減消	3,000,000	3,000,000	0
旅通減消	114,471,916	115,145,133	-673,217
旅通減消	10,992,307	11,856,990	-864,683
旅通減消	88,243,704	82,089,031	6,154,673
旅通減消	112,582,231	90,227,567	22,354,664
旅通減消	15,557,343	16,164,792	-607,449
旅通減消	2,307,150	2,575,000	-267,850
旅通減消	5,078,272	4,536,315	541,957
旅通減消	40,700	42,300	-1,600
旅通減消	2,073,058	2,714,933	-641,875
旅通減消	605,701	860,802	-255,101
旅通減消	2,300	600	1,700
旅通減消	259,764	6,915	252,849
旅通減消	10,000	57,300	-47,300
旅通減消	0	181,871	-181,871
旅通減消	48,663	61,016	-12,353
旅通減消	571,461	571,461	0
旅通減消	288,993	134,093	154,900
旅通減消	1,200,000	1,200,000	0
旅通減消	946,740	841,951	104,789
旅通減消	638,619	866,317	-227,698
旅通減消	144,000	138,600	5,400
旅通減消	20,000	20,000	0
旅通減消	1,161,722	1,197,868	-36,146
旅通減消	160,200	157,450	2,750
経常費用計	1,631,746,029	1,581,309,372	50,436,657
評価損益等調整前当期経常増減額	7,906,920	16,075,221	-8,168,301
投資有価証券評価損益等	-324,679	-121,037	-203,642
評価損益等計	-324,679	-121,037	-203,642
当期経常増減額	7,582,241	15,954,184	-8,371,943
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	2	52,814	-52,812
経常外費用計	2	52,814	-52,812
当期経常外増減額	-2	-52,814	52,812
当期一般正味財産増減額	7,582,239	15,901,370	-8,319,131
一般正味財産期首残高	1,382,351,353	1,366,449,983	15,901,370
一般正味財産期末残高	1,389,933,592	1,382,351,353	7,582,239
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用利益	177,691	1,189,164	-1,011,473
基本財産受取利益	177,691	1,189,164	-1,011,473
基本財産評価利益	70,000	30,000	40,000
基本財産評価損	70,000	30,000	40,000
基本財産評価損	1,321,221	882,063	439,158
基本財産評価損	1,321,221	882,063	439,158
一般正味財産への振替額	-177,691	-981,340	803,649
当期指定正味財産増減額	-1,251,221	-644,239	-606,982
指定正味財産期首残高	697,547,941	698,192,180	-644,239
指定正味財産期末残高	696,296,720	697,547,941	-1,251,221
III 正味財産期末残高	2,086,230,312	2,079,899,294	6,331,018

正味財産増減計算書内訳表

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	事業別会計				法人会計	合 計
	予防医学振興事業	福祉事業	音楽文化振興事業	小 計		
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
基本財産運用益	0	0	0	0	177,693	177,693
基本財産受取利息	0	0	0	0	177,693	177,693
事業収益	1,035,748,014	0	184,480,944	1,220,228,958	0	1,220,228,958
健診事業収益	1,035,748,014	0	0	1,035,748,014	0	1,035,748,014
いずみ事業収益	0	0	184,480,944	184,480,944	0	184,480,944
受取補助金等	0	0	33,592,000	33,592,000	0	33,592,000
受取補助金	0	0	33,592,000	33,592,000	0	33,592,000
受取寄付金	41,000,000	46,000,000	260,000,000	347,000,000	38,000,000	385,000,000
受取寄付金	41,000,000	46,000,000	260,000,000	347,000,000	38,000,000	385,000,000
雑収益	258,384	0	395,914	654,298	0	654,298
受取利息	7,117	0	0	7,117	0	7,117
雑収益	251,267	0	395,914	647,181	0	647,181
経常収益計	1,077,006,398	46,000,000	478,468,858	1,601,475,256	38,177,693	1,639,652,949
(2) 経常費用						
事業費	1,110,656,737	39,970,323	465,561,626	1,616,188,686	0	1,616,188,686
役員報酬	2,544,000	2,544,000	5,835,850	10,923,850	0	10,923,850
給料手当	235,702,789	7,068,082	111,773,782	354,544,653	0	354,544,653
臨時雇賃金	288,412,494	0	21,591,740	310,004,234	0	310,004,234
退職給付費用	24,285,900	81,400	2,907,000	27,274,300	0	27,274,300
福利厚生費	49,537,425	3,550,543	27,225,349	80,313,317	0	80,313,317
広報伝達費	469,648	9,700,000	13,374,847	23,544,495	0	23,544,495
旅費交通費	17,800,488	1,196,552	7,034,048	26,031,088	0	26,031,088
通信搬送費	17,079,175	1,500	7,369,877	24,450,552	0	24,450,552
減価償却費	52,441,261	0	6,125,720	58,566,981	0	58,566,981
消耗什器備品費	882,620	0	429,266	1,311,886	0	1,311,886
消耗品費	13,331,244	1,290	5,231,439	18,563,973	0	18,563,973
健診消耗品費	116,933,878	0	0	116,933,878	0	116,933,878
修繕費	29,260,018	0	2,399,800	31,659,818	0	31,659,818
印刷製本費	3,734,406	29,000	5,700,898	9,464,304	0	9,464,304
光熱水料	11,755,222	65,280	4,212,386	16,032,888	0	16,032,888
賃借料	140,644,118	766,594	7,801,730	149,212,442	0	149,212,442
保険料	374,095	2,077	589,502	965,674	0	965,674
諸謝金	0	20,630	1,721,669	1,742,299	0	1,742,299
会議交際費	79,392	2,145,811	556,406	2,781,609	0	2,781,609
租税公課	3,605,622	1,985,571	15,799,539	21,390,732	0	21,390,732
支払負担金	532,400	0	653,155	1,185,555	0	1,185,555
支払助成金	0	3,000,000	0	3,000,000	0	3,000,000
委託費	93,161,983	7,796,673	13,513,260	114,471,916	0	114,471,916
雑費	8,088,559	15,320	2,888,428	10,992,307	0	10,992,307
いずみホール管理費	0	0	88,243,704	88,243,704	0	88,243,704
公演企画制作費	0	0	112,582,231	112,582,231	0	112,582,231
管理費	0	0	0	0	15,557,343	15,557,343
役員報酬	0	0	0	0	2,307,150	2,307,150
給料手当	0	0	0	0	5,078,272	5,078,272
退職給付費用	0	0	0	0	40,700	40,700
福利厚生費	0	0	0	0	2,073,058	2,073,058
旅費交通費	0	0	0	0	605,701	605,701
通信搬送費	0	0	0	0	2,300	2,300
消耗品費	0	0	0	0	259,764	259,764
修繕費	0	0	0	0	10,000	10,000
光熱水料	0	0	0	0	48,663	48,663
賃借料	0	0	0	0	571,461	571,461
保険料	0	0	0	0	288,993	288,993
諸謝金	0	0	0	0	1,200,000	1,200,000
会議交際費	0	0	0	0	946,740	946,740
租税公課	0	0	0	0	638,619	638,619
支払負担金	0	0	0	0	144,000	144,000
支払寄付金	0	0	0	0	20,000	20,000
委託費	0	0	0	0	1,161,722	1,161,722
雑費	0	0	0	0	160,200	160,200
経常費用計	1,110,656,737	39,970,323	465,561,626	1,616,188,686	15,557,343	1,631,746,029
評価損益等調整前当期経常増減額	-33,650,339	6,029,677	12,907,232	-14,713,430	22,620,350	7,906,920
投資有価証券評価損益等	-324,100	0	0	-324,100	-579	-324,679
評価損益等計	-324,100	0	0	-324,100	-579	-324,679
当期経常増減額	-33,974,439	6,029,677	12,907,232	-15,037,530	22,619,771	7,582,241
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
固定資産除却損	2	0	0	2	0	2
経常外費用計	2	0	0	2	0	2
当期経常外増減額	-2	0	0	-2	0	-2
当期一般正味財産増減額	-33,974,441	6,029,677	12,907,232	-15,037,532	22,619,771	7,582,239
一般正味財産期首残高	1,887,132,303	-1,134,987,797	-1,615,375,700	-863,231,194	2,245,582,547	1,382,351,353
一般正味財産期末残高	1,853,157,862	-1,128,958,120	-1,602,468,468	-878,268,726	2,268,202,318	1,389,933,592
II 指定正味財産増減の部						
基本財産運用益	0	0	0	0	177,691	177,691
基本財産受取利息	0	0	0	0	177,691	177,691
基本財産評価益	0	0	0	0	70,000	70,000
基本財産評価損	0	0	0	0	70,000	70,000
基本財産評価損	0	0	0	0	1,321,221	1,321,221
基本財産評価損	0	0	0	0	1,321,221	1,321,221
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	-177,691	-177,691
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	-1,251,221	-1,251,221
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	697,547,941	697,547,941
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	696,296,720	696,296,720
III 正味財産期末残高	1,853,157,862	-1,128,958,120	-1,602,468,468	-878,268,726	2,964,499,038	2,086,230,312

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 満期保有目的の債券・・・移動平均法による償却原価法(定額法)によっている。
 - その他有価証券
 - 時価のあるもの・・・期末日の市場価額等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)
 - 時価のないもの・・・移動平均法による原価法
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
 - 貯蔵品・・・個別法による原価法によっている。
- (3) 有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却の方法
 - 定額法によっている。(耐用年数及び残存価額は法人税法に規定する方法と同一の基準)
- (4) 無形固定資産(リース資産を除く)の減価償却の方法
 - 定額法によっている。(耐用年数及び残存価額は法人税法に規定する方法と同一の基準)
- (5) 引当金の計上基準
 - 退職給付引当金・・・職員の退職給付に備えるため、退職一時金については当事業年度末における自己都合要支給額に相当する金額、退職年金については年金の将来支給予定額を現在価値に割引いた金額を計上している。
 - なお、会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用処理している。
 - 賞与引当金・・・職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (6) 消費税等の会計処理
 - 税抜方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	597,827,000	100,070,000	1,321,800	696,575,200
普通預金	101,039,350	0	100,000,000	1,039,350
小計	698,866,350	100,070,000	101,321,800	697,614,550
特定資産				
退職給付引当資産	202,974,520	10,000,000	13,361,000	199,613,520
小計	202,974,520	10,000,000	13,361,000	199,613,520
合計	901,840,870	110,070,000	114,682,800	897,228,070

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
投資有価証券	696,575,200	696,296,720	278,480	0
普通預金	1,039,350	0	1,039,350	0
小計	697,614,550	696,296,720	1,317,830	0
特定資産				
退職給付引当資産	199,613,520	0	0	199,613,520
小計	199,613,520	0	0	199,613,520
合計	897,228,070	696,296,720	1,317,830	199,613,520

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	660,430,650	639,910,775	20,519,875
構築物	2,797,498	1,162,979	1,634,519
什器備品	692,713,455	565,174,154	127,539,301
ソフトウェア	96,390,231	87,875,348	8,514,883
合計	1,452,331,834	1,294,123,256	158,208,578

5. 偶発債務

事務所及び診療施設に関して、賃貸借契約に基づく賃貸借契約終了時の原状回復義務を有しているが、その見積額は、360,000,000円である。なお、当財団は建物の取壊しまで賃貸借契約を継続する意向であり、その場合には原状回復を行うことなく建物の取壊しが行われると考えられることから、損失の発生の可能性は低いと判断している。

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
寄付金						
基本財産充当寄付金	住友生命保険相互会社	697,547,941	247,691	1,498,912	696,296,720	指定正味財産
2023年度寄付金	住友生命保険相互会社	0	385,000,000	385,000,000	0	一般正味財産
助成金						
2023年度文化芸術振興費補助金	独立行政法人日本芸術文化振興会	0	25,792,000	25,792,000	0	一般正味財産
2023年度芸術活動振興事業助成金	大阪市	0	6,000,000	6,000,000	0	一般正味財産
新・音楽の未来への旅シリーズ2023助成金	公益財団法人野村財団	0	500,000	500,000	0	一般正味財産
マスタークラス助成金	日本室内楽振興財団	0	200,000	200,000	0	一般正味財産
7/8公演助成金	公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団	0	400,000	400,000	0	一般正味財産
7/8公演助成金	花王芸術・科学財団	0	700,000	700,000	0	一般正味財産
合 計		697,547,941	418,839,691	420,090,912	696,296,720	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息振替額 (償却原価法によるものを除く)	177,691
合 計	177,691

8. 金融商品に関する事項

- (1) 金融商品に対する取組方針
当法人は、預金及び債券により資産運用し、デリバティブ取引は行わない方針である。
- (2) 金融商品の内容及びそのリスク
有価証券及び投資有価証券は、債券であり、発行体の信用リスク、市場価格の変動リスクにさらされている。
- (3) 金融商品のリスクに係る管理体制
 - ① 資金運用規程に基づく取引
金融商品の取引は、当法人の資金運用規程に基づき行っている。
 - ② 信用リスクの管理
発行体の状況等を定期的に把握し、理事会に報告している。
 - ③ 市場リスクの管理
関連する市場の動向等を把握し、理事会に報告している。

9. その他

- (1) 退職給付関係
 - ①採用している退職給付制度の概要
確定給付型の制度として退職一時金及び退職年金制度を設けている。

②退職給付債務及びその内訳

(単位:円)

退職給付債務	-283,537,000
退職給付引当金	-283,537,000

③退職給付費用に関する事項

(単位:円)

勤務費用	26,945,000
退職給付費用	26,945,000

④退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職一時金制度に基づく期末の自己都合要支給額及び退職年金制度に基づく将来支給予定額を現在価値に割り引いた金額を計算の基礎としている。

(2) 資産除去債務

事務所及び診療施設に関して、賃貸借契約に基づく賃貸借契約終了時の原状回復義務を有しているが、当財団は建物の取壊しまで賃貸借契約を継続する意向であり、その場合には原状回復を行うことなく建物の取壊しが行われると考えられることから、資産除去債務を計上していない。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細書
 財務諸表に対する注記に記載をしており、内容の記載を省略する。

2. 引当金の明細書

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	43,021,235	44,060,878	43,021,235	0	44,060,878
退職給付引当金	280,816,000	27,315,000	24,594,000	0	283,537,000

予算対比正味財産増減計算書(参考資料)

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用用益	206,000	177,693	28,307
基本財産受取利息	206,000	177,693	28,307
事業業収益	1,309,738,000	1,220,228,958	89,509,042
健診事業業収益	1,101,800,000	1,035,748,014	66,051,986
受取み補事業業収益	207,938,000	184,480,944	23,457,056
受取取寄助業業収益	24,700,000	33,592,000	-8,892,000
受取取寄助業業収益	24,700,000	33,592,000	-8,892,000
受取取寄助業業収益	385,000,000	385,000,000	0
受取取寄助業業収益	385,000,000	385,000,000	0
雑受取利息	331,000	654,298	-323,298
雑受取利息	7,000	7,117	-117
雑受取利息	324,000	647,181	-323,181
経常収益計	1,719,975,000	1,639,652,949	80,322,051
(2) 経常費用			
事業費	1,682,980,000	1,616,188,686	66,791,314
役員給当金	10,788,000	10,923,850	-135,850
臨時職給	353,220,000	354,544,653	-1,324,653
退職給付	323,109,000	310,004,234	13,104,766
福利厚生費	17,762,000	27,274,300	-9,512,300
旅通費	86,123,000	80,313,317	5,809,683
旅通費	16,710,000	23,544,495	-6,834,495
旅通費	28,370,000	26,031,088	2,338,912
旅通費	25,232,000	24,450,552	781,448
旅通費	60,098,000	58,566,981	1,531,019
旅通費	3,900,000	1,311,886	2,588,114
旅通費	19,893,000	18,563,973	1,329,027
旅通費	124,784,000	116,933,878	7,850,122
旅通費	34,750,000	31,659,818	3,090,182
旅通費	10,198,000	9,464,304	733,696
旅通費	16,998,000	16,032,888	965,112
旅通費	150,696,000	149,212,442	1,483,558
旅通費	1,349,000	965,674	383,326
旅通費	2,190,000	1,742,299	447,701
旅通費	4,198,000	2,781,609	1,416,391
旅通費	20,113,000	21,390,732	-1,277,732
旅通費	1,486,000	1,185,555	300,445
旅通費	3,000,000	3,000,000	0
旅通費	136,759,000	114,471,916	22,287,084
旅通費	15,298,000	10,992,307	4,305,693
旅通費	88,042,000	88,243,704	-201,704
旅通費	127,914,000	112,582,231	15,331,769
旅通費	13,751,000	15,557,343	-1,806,343
旅通費	3,572,000	2,307,150	1,264,850
旅通費	2,593,000	5,078,272	-2,485,272
旅通費	-13,000	40,700	-53,700
旅通費	1,401,000	2,073,058	-672,058
旅通費	696,000	605,701	90,299
旅通費	29,000	2,300	26,700
旅通費	105,000	259,764	-154,764
旅通費	0	10,000	-10,000
旅通費	300,000	0	300,000
旅通費	42,000	48,663	-6,663
旅通費	488,000	571,461	-83,461
旅通費	201,000	288,993	-87,993
旅通費	1,250,000	1,200,000	50,000
旅通費	800,000	946,740	-146,740
旅通費	944,000	638,619	305,381
旅通費	150,000	144,000	6,000
旅通費	20,000	20,000	0
旅通費	1,038,000	1,161,722	-123,722
旅通費	135,000	160,200	-25,200
経常費用計	1,696,731,000	1,631,746,029	64,984,971
評価損益等調整前当期経常増減額	23,244,000	7,906,920	15,337,080
評価損益等計	0	-324,679	324,679
当期経常増減額	23,244,000	7,582,241	15,661,759
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	0	2	-2
経常外費用計	0	2	-2
当期経常外増減額	0	-2	2
当期一般正味財産増減額	23,244,000	7,582,239	15,661,761
一般正味財産期首残高	1,426,898,000	1,382,351,353	44,546,647
一般正味財産期末残高	1,450,142,000	1,389,933,592	60,208,408
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用用益	206,000	177,691	28,309
基本財産受取利息	206,000	177,691	28,309
基本財産評価益	0	70,000	-70,000
基本財産評価損	0	70,000	-70,000
基本財産評価損	0	1,321,221	-1,321,221
基本財産評価損	0	1,321,221	-1,321,221
一般正味財産への振替額	-206,000	-177,691	-28,309
当期指定正味財産増減額	1,000	-1,251,221	1,252,221
指定正味財産期首残高	698,125,000	697,547,941	577,059
指定正味財産期末残高	698,126,000	696,296,720	1,829,280
III 正味財産期末残高			
設備投資額	予算額: 100,144,000	決算額: 31,588,280	

財産目録（参考資料）

2024年 3月31日現在

（単位：円）

貸借対照表科目		内容・備考	金額		
(流動資産)	現金		1,493,975		
		手元保管（予防医学振興事業）	1,386,118		
		手元保管（音楽文化振興事業）	107,857		
	預金	普通預金		1,034,634,715	
			三井住友銀行（予防医学振興事業）	451,317,632	
			みずほ銀行（予防医学振興事業）	10,339,601	
			三菱UFJ銀行（予防医学振興事業）	126,913,200	
			ゆうちょ銀行（予防医学振興事業）	1,758,900	
			三井住友銀行（福祉事業）	105,697,996	
			関西みらい銀行（音楽文化振興事業）	110,900,929	
			関西みらい銀行（音楽文化振興事業）	32,984,889	
			関西みらい銀行（音楽文化振興事業）	24,260,683	
			三菱UFJ銀行（音楽文化振興事業）	596,762	
			三井住友銀行（音楽文化振興事業）	989,459	
			三井住友銀行（音楽文化振興事業）	15,000,000	
			ゆうちょ銀行（音楽文化振興事業）	25,161,763	
			三井住友銀行（法人会計）	128,712,901	
	未収収益		61,327		
	未収金		168,164,415		
		予防医学振興事業未収金	128,668,960		
	音楽文化振興事業未収金	39,495,455			
貯蔵品			11,265,559		
		予防医学振興事業貯蔵品	9,079,198		
有価証券		音楽文化振興事業貯蔵品	2,186,361		
			199,895,100		
立替金 前払費用		第 3 回茨城県債（予防医学振興事業）	99,945,100		
		第 1 6 5 回大阪府債（予防医学振興事業）	99,950,000		
仮払金			541,600		
			6,604,377		
		予防医学振興事業前払費用	1,715,780		
		音楽文化振興事業前払費用	4,888,597		
未収還付法人税等			5,610,000		
		予防医学振興事業仮払金	5,610,000		
流動資産合計			1,428,272,150		
(固定資産)	基本財産	投資有価証券	697,614,550		
			696,575,200		
			99,920,000		
			298,972,400		
			198,369,900		
	特定資産	普通預金		99,312,900	
				1,039,350	
			三菱UFJ銀行（法人会計）	1,039,350	
	その他固定資産	退職給付引当資産		199,613,520	
				199,613,520	
			三菱UFJ銀行（予防医学振興事業）	167,721,520	
			関西みらい銀行（音楽文化振興事業）	31,892,000	
		建物付属設備 構築物 什器備品 ソフトウェア 投資有価証券			262,797,178
					20,519,875
					1,634,519
					127,539,301
					8,514,883
					99,190,000
				99,190,000	
			第 1 9 2 回利付国債（予防医学振興事業）	99,190,000	
電話加入権		432,000			
敷金		4,652,000			
長期前払費用		314,600			
固定資産合計			1,160,025,248		
資産合計			2,588,297,398		
(流動負債)	未払金		113,901,462		
			72,305,934		
	未払費用		41,595,528		
			10,238,970		
	預り金		6,581,734		
			3,657,236		
	前受金		6,839,066		
			4,227,201		
	賞与引当金		2,611,865		
			30,664,010		
未払法人税等 未払消費税等		30,664,010			
		44,060,878			
	予防医学振興事業賞与引当金	33,706,234			
	音楽文化振興事業賞与引当金	10,354,644			
流動負債合計			120,000		
			12,705,700		
流動負債合計			218,530,086		
(固定負債)	退職給付引当金		283,537,000		
			251,645,000		
	予防医学振興事業退職給付引当金	251,645,000			
	音楽文化振興事業退職給付引当金	31,892,000			
固定負債合計			283,537,000		
負債合計			502,067,086		
正味財産			2,086,230,312		

監 査 報 告

2024年 5月 14日

一般財団法人住友生命福祉文化財団
理事長 藤山 勝伸 殿

監事

上野博明 

監事

田中英行 

私たち監事は、2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行いました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上